箕面市ハット市友好クラブ
Minoh-Hutt Friendship Club(MHFC)

ハットクラブだより

2023年1月　No.53

第２回箕面市姉妹都市交流フォーラムを開催しました

2022年11月27日、箕面市立みのお市民活動センターにて姉妹都市交流フォーラムを開催しました。
テーマは『姉妹都市交流がめざす世界の平和～私たち市民にできること～』として、姉妹都市交流の目的であるお互いの文化を理解し、市民間の信頼関係を築くことで世界の平和を考える機会となりました。

第１部 基調講演「周縁から見た世界～スワヒリ語とタンザニアでの経験を通して～」

講師：大阪大学外国語学部長　竹村 景子 教授

【 講演の主な内容 】

＊世界の言語状況は、5,000～8,000言語あるといわれています。
＊日本における英語教育の問題点は、学校のテキストに英語圏の文化や文学に関する記載がなさすぎると感じています。
＊スワヒリ語を学び始めた理由は、幼い頃のテレビ報道は「アフリカは干ばつと飢餓とライオンとアパルトヘイト」ばかりでした。真実を確かめたいと思いました。
＊スワヒリ語を通して学んだ事は、言語は文化の一部、文化は言語によって運ばれるということです。
＊アフリカ地域研究を通して見えたものは、日本ではロシアによるウクライナ侵攻が報道されていますが、この瞬間にもアフリカ大陸では今でも常に紛争がいくつかあります。それが日本では報道されていません。日本社会がどこを向いているか。私たちは本質を改めて考える必要があります。

第２部 パネルディスカッション「若者が考える世界の平和と姉妹都市交流」

パネリスト：ニール トレース さん（箕面市国際交流員・ニュージーランド出身）
クラウディア エリウス オセゲダ フィゲロアさん（箕面市国際交流員・メキシコ出身）
髙橋 諭吉さん（一般社団法人箕面青年会議所2022年理事長）
コーディネーター：森　遼太さん（箕面市ハット市友好クラブ運営委員・大阪大学学生）

2部のパネルディスカッションでは、それぞれの自己紹介のあと、出身国から見た平和とは何かをディスカッションしました。

トレースさん：ニュージーランド国内では、今まで大きな戦争はありませんが、植民地化の犠牲者であった先住民のマオリ族は､今もまだ不利な生活を強いられています。
私たち市民にできることは、世界で起きていることを意識して仲間のために立ち上がり、いろんな人々と交流することだと思います。
クラウディアさん：メキシコでは「独立戦争」と「メキシコ革命」、2つの大きな戦争がありました。世界では今もどこかで戦争が起こっています。金融危機や人道的危機に直面しています。私たちにできることは、行動の全てに「愛（love）」を持ち、その行動を積み重ねることで、世界が平和になっていくのではないでしょうか。
高橋さん：私がフィリピンに住んでいる頃は、宗教の戒律などでのテロや暴動がありました。人びとが謙虚に尊重し合うことが平和につながると思います。

【最後に】姉妹都市交流に求められること
人と人との交流でお互いの国の文化を理解し合あい、さらに色んな国の人々に広がっていくことによって平和な世界になると考えます。

大阪大学夏祭り

川島　一彦

2022年7月9日、大阪大学箕面キャンパスで夏まつりが開かれました。当クラブも声をかけて頂いたので参加する事にしました。参加団体は屋内組と屋外組に分けられ、我々は屋内の教室一つを借りてクラブの紹介をすることになりました。

ポスター、パネル、ちらし、出版物、地図、国旗などを展示、廊下を行き交う人々に呼びかけました。さすが主催が国立大学のせいか、けっこう姉妹都市交流に関心を持って入室する人が多く、我々の説明にも多くの人達が熱心に耳をかたむけてくれました。

正午ごろあらかじめ打ち合わせをしておいたNZハット市の人達とも、モニター画面を通じてオンライン交流をはかることが出来ました。当地在住のALT（英語補助教員）の人達も交流に参加し、活発な会話が弾んでいました。ハット市にある「みのおハウス・トラスト」の会長ブレイディさんも顔を出してくれました。両国の時差が3～4時間と短いのでこのようにリアルタイムで話し合う事が出来るのは実に素晴らしいことだと思います。

午後には当クラブのメンバーの一人が、「ハカ」を披露してくれました。これはNZ特有の伝統的な儀式のようなもので、日本人が実演するというのは非常に珍しいことだと思います。これも大勢の人たちが見学にきてくれました。

展示物の中には交流20周年に発行した「ハットクラブ20年のあゆみ」やクラブの有志が翻訳、出版したハット市史とも言うべき「ロアーハット・最初の庭園都市」もありました。これらの説明に興味を持って聞いていただけたことは非常に有り難かったと思います。

屋外では、屋台店が数多く並び、また特設舞台では各種のダンスなどが披露されたりしてかなりの盛り上がりを見せていました。でも一般的な祭りと違って大学主催という事で、客層もただのお祭り騒ぎだけを期待する人達ばかりではなかったという印象を受けました。また機会があれば参加させてほしいと思います。

第37回箕面まつり　ハットクラブから２人がメキシコ友の会ブースをサポート

六角　みよ子

2022年の箕面まつりは、10月1日（土）、2日（日）に開催されました。コロナパンデミックのため、3年ぶりの開催です。10月とはいえ、気温は両日とも30度を超える暑さの中、お祭り会場の芦原公園に集まった人々の群れは凄いもので、人をかき分けて歩くさまでした。

また、この公園に設営された野外ステージでは、ダンスのパフォーマンスやミュージック演奏がギャラリーを沸かせており、70のブースに105店が会場を賑わせ、お祭り気分は最高に盛り上がっていました。

ハットクラブはブースを出さなかったので、今後の参考のために本クラブから2人がメキシコ友の会のブースの手伝いをしました。メキシコ出身国際交流員がソンブレロをかぶり、メキシコムードが満ち溢れる中での売り物は、タコス、ケサディジャ、マンゴージュース、テキーラ、コロナビールでした。気温が高いため、飲み物を氷で冷やさなければならず、氷の手配が重要でした。ハットクラブからのKさんの呼びかけ声に応じて、どれもよく売れました。ライムをかじり、テキーラをストレートでグイッと飲み干す男性・女性、やはりお祭りですね。お客さんたちとの会話も楽しく、サポートする私たちはすっかりメキシコムードに浸っていました。

このブースに、8月に来日したばかりのALT（英語指導補助教員）の男女5，6人が来場しました。イギリス、アメリカ、などからJETプログラムで派遣の先生方です。早速、相互にLINEで交信できるようにしたため、交流は今尚続いています。ニュージーランド出身国際交流員のご夫妻は、着物に作務衣、と日本風情緒あふれる装いで来場でした。

今回のこのサポートで、今まで知らなかったメキシコ友の会の会員、留学経験を楽しくお話の箕面市民、そしてALTの皆さん、他にも大勢の方々と出会い、祭りがもたらすご縁を感じました。暑さに閉口しながらもハットクラブからの2人が、箕面まつりに参加して得た賜のように思います。

「Z世代」のニーズと「Youth部会」の今後

松崎　良太朗

自己紹介

写真を見て「見ない顔だな」と思われたと思います。こんにちは。今年準運営委員になりました松崎良太朗です。大阪大学外国語学部で英語を専攻しております。また、アルバイトとして塾講師をしている他、大阪大学の理系高校生向けプロジェクト「SEEDS」のアシスタントもしています。仕事上、今の中高生の状況にも明るいです。

22年度キウイパーティーでの、
私（一番左）と箕面市のALTの先生方

「Z世代」と国際交流

現在の中学生～大学生、いわゆる「Z世代」の状況を俯瞰しますと、彼らは強い国際交流へのニーズを有しています。英語専攻のクラスでは、留学を希望する学生も多く、その準備として経験を積むために国際交流や英語を使うことを希望しています。また、留学を希望していなくても、社会がますますグローバル化する中で、将来のことを考えて国際交流の経験を積むニーズは高いです。しかし、彼らには肝心の国際交流を行える場所がなかなかありません。Z世代の特徴は個人主義とも言われますが、彼らはコミュニティに属したり、なにかの集まりに参加したりということが苦手な傾向があります。実際、肌感覚として、サークル・部活動文化は明らかに下火になっています。サークル・部活動に参加していない学生が7割にも上るというデータもあります。当クラブが主催する英会話サロンも当然ですが、大学で行われている国際交流イベントも、参加することに二の足を踏む学生が多いように感じます。

「Youth部会」の今後

10月の会議で、阿部会長から若者中心の「Youth部会」を立ち上げる提案があり、私と、同じく大阪大学の学生の森委員中心に「Youth部会」を動かしていくことになりました。この会の当面の動きとしては、交流クラブについての広報活動を若者向けのメディア（ツイッターやインスタグラムなどのSNS）で行います。交流クラブは、英会話サロン中心に、国際交流や英語の技能向上のニーズを持つ学生にとって魅力的なイベントを開いているので、その存在を周知することが重要かと考えています。また、各イベントに、「Youth部会」だからこそできる貢献（若い参加者への対応など）をしていきたいです。

キウイーパーティー

窪　敏夫

12月10日（土）箕面市国際交流協会の喫茶レストラン『コムカフェ』で三年ぶりのキウイーパーティーを開きました。今回は場所も内容も変えて、フル・モデルチェンジのパーティーでした。そのあたりの話を少しご紹介します。

これまで毎回大阪大学交響楽団の弦楽四重奏を入れて来ましたが、三年間のブランクで窓口だった学生さんが卒業しコンタクトが切れてしまいました。どうしようかと色々考えた末に、運営委員に楽器ができる人がいるので「この際、自前でやって見よう」と思って声を掛けました。幸い皆さん快く引き受けて頂いて「試しにやって見て、ダメだと分かったらやめときましょう」と言う話になり、集まったのは10月も終わりの頃でした。

メンバーは全員運営委員で川島さん（カホン）、平井さん（ベース）、山根さん（アルトサックスとフルート）、私のギターです。何も決めないままに音合わせをして「こんなのはどう？あんなのはどう？」とやっている内に段々と息が合って来ます。その内「初見にしてはいけるんじゃない？」と言う感触になり「じゃ、やって見よう」となって、曲目もその日のうちに決まり、バンド名「ハットクラブ軽音部」で本格的に練習開始です。

とは言え、なかなか練習時間が取れずに5曲をわずか4回の練習で本番が迫ります。しかしここで救世主の登場です！会員であり友好議員連盟会長でもある神代さんに参加して貰える事になりました。その結果ギター伴奏が一気にレベルアップし「これならいける！」の仕上がりです。神代さんには本番僅か4日前のお願い、たった一度の練習、実質ほぼ拉致状態（？）と言う無茶ぶりでしたが、さすがのキャリアです、ピッタリと息の合った歌と演奏で盛り上げて頂きました。急な声掛けでしたが、皆さんには改めて感謝申し上げます。

今回は「会員でこんな楽しみ方もできる」と思わせてくれる経験でもありました。皆さんも趣味の仲間を募って楽しんではいかがでしょうか？以前ご連絡の通り、仲間集めはクラブのグループメールを使って運営委員会が橋渡しをします。

最後になります。ハットクラブ軽音部はこれからも時々演奏を楽しんで行きたいと思っていますが、一つ足りない楽器があります。キーボードと言う楽器で、これがあればほぼ完璧な編成になりますので、できる方が居られれば是非参加してください。

自己紹介（箕面市ハット市友好クラブ運営委員）

東條 暁之　とうじょう としゆき

去年に入会させていただき会計を務めております東條です。

私は父親の仕事で幼少期の15年近くをアメリカのニューヨークで過ごしました。ニューヨークと聞くと写真のセントラルパークがあるマンハッタンの大都会をイメージされる方が多いかと思いますが、そこはほんの一部にしかすぎません。北の方はカナダとの境目にあるナイアガラの滝まで実はニューヨーク州で、北海道と九州を足してもニューヨーク州の方が広いのです。

私が育ったところはマンハッタンの中心部から1時間ほど東に行ったロングアイランドのコマック市という所でした。8割近くが白人で、夜中に子供一人で歩けるほど安全な場所です。マイノリティーの東洋人ということで人種差別はありましたが、日本はその中でも好感度が高いので優しい方だったかと思います。プレーステーション２が発売になった時、日本ではもうプレーステーション５ぐらいが売られているのでしょう？などとIT技術が進んでいるイメージを冗談交えて言われたのを鮮明に覚えています。

高校1年生の時に日本に帰国したので大人になってからのニューヨークは知りませんが、教育など幼少期のことは色々思うことがあります。まず中学1年生の時から授業が半分ほど選択制でした。日本の集団思考はもちろんメリットもありますが、アメリカのここを大事にする考えもいいとこがたくさんあります。早い段階で自分がどんな勉強をしたいのか、どんなスケジュールにしたいのか、親や先生たちと相談しながら物事を決断する能力を上げるためにはとてもいい方法です。他には部活が季節ごとに変わることです。例えば冬はバスケットボール、春は陸上、夏はサッカー、秋はアメリカンフットボール、のように別のスポーツを選べます。他のスポーツをすることで経験値が伸びると思いますしオプションが広がります。実際に2つ3つのスポーツで奨学金をもらう人もいます。

ニューヨークで育てられた人間性を今後も強みとして、ハットクラブに還元できますよう頑張ります。

森　遼太　もり りょうた

皆様こんにちは、ハットクラブの運営委員をさせていただいています、森といいます。

さて、私事ではありますが、今年の夏休み3週間ほどエジプトのアレクサンドリアという町に滞在していました。目的はプチ留学と卒業論文のための材料集め、観光ですが、様々な経験ができたのでぜひ紹介したいと思います。

アレクサンドリアは、カイロに次ぐエジプト第二の都市で、地中海に面しています。エジプトは暑いというイメージがあるかもしれませんが、ことアレクサンドリアに関しては地中海性気候のため“まだ”過ごしやすかった印象です（カイロやピラミッドのあるギザに行ったときは本当に大変でした）。有名なものとしては、アレクサンドリア大図書館（下の写真）の名を一度は耳にしたことがあるのではないでしょうか（以前のものは焼失して柱１本しか残っていませんが現在はまた再建されています）

目的は卒業論文の材料集めと先ほど触れましたが、その内容とはエジプト手話の辞書を探すことです。出発前、辞書はどこにでもあるだろうと思っていたのですが、現地では全然見つからず、町で本屋に行って

هل عندك كتاب عن لغة الاشارة؟

（手話に関する本ありますか？）

と聞いては??（いいえ）と言われるばかりでした。そんな中、多くの書店がある市場で聞き込みをしていると、ある男性が自分のことを気にかけてくれ、一緒に探すのを手伝ってくれました。そこでも目当ての本はなかったのですが、別れ際、困ったことがあれば電話してと電話番号を書いたメモももらうなど、人の親切をひしひしと感じる体験でした。

滞在中は、郷に入っては郷に従えという言葉にもあるようにできるだけアラビア語（エジプト方言）を話していると、心なしか相手の表情もよかった気がします。例えば、駅のホームでお菓子を買おうとすると、店主ははじめ無表情でしたが、アラビア語で話すと笑顔になっていろいろと話かけてくれました。（残念ながら早口で意味は全く聞き取れませんでしたが・・）

他にもピラミッドで２度ぼったくりにあった話などいろいろとありますが、紙面の関係上ここまでになってしまいました。短期間ではありますが、人との関わりや言語の重要性、異文化交流の面白さを身にしみて感じることができ、よい経験ができたと思います。最後に、ピラミッドは１度生で見ることをお勧めしますが、現地の食べ物、飲み物にはくれぐれもご注意ください。

NZハットアートとの国際美術交流

箕面市美術協会 会長 **九後 稔**

初めて声をかけたハットアートの女性と美術協会訪問団の会員のみなさん

箕面市美術協会は、1956年箕面市が誕生（市制施行）した年に設立され、今年で67歳を迎えます。会員数は116名、ここ数年はコロナに振り回され展覧会の延期や中止で不自由な時期が続きました。私も会長として3月で丸10年、この間、創立60周年を記念して何かしたいと考えていた頃、折しも2015年1月箕面市が姉妹都市であるNZハット市との提携20周年記念式典をNZハット市で開催することになり参加募集がありました。市民団体として美協から5名訪問することになり、当初、NZハット市のことは全く知らないまま、美術関連の組織があるのか現地の状況を見て回りたいと思ったのです。

創立60周年記念美術展・国際美術交流展開会式テープカットをする。
左から3人目倉田前市長、私、6人目上島現市長、他

訪問3日目の1月31日、NZハット市にDOWSE ART MUSEUMという立派な美術館があり見学。昼食後、その前に大きな広場があり市民の憩いの場となっているのですが、沢山の人たちが油絵を描いて楽しんでいます。そこで一人の女性に声を掛けたことから思いもしない展開になりました。この人たちはハットアートのメンバーであることを後から知りましたが、この時に当時の会長デビッドバウムさんと初めて出会ったのです。そして初対面なのにいきなり私から切り出したのが、「姉妹都市の箕面市からやってきました。できれば美術の交流が出来ませんか？」でした。少し驚いた様子でしたが、「ハットアートで良ければやりましょう。」との返事をもらいました。

訪問5日目の2月2日、副市長Dバセットさんの仲介でハットアートを訪問することになり、話がどんどん進んでいきました。

その年の秋にはハット市から訪問団が箕面市へ来られ、同行したデビッド会長と協議。翌2016年5月開催の美協の会員展にハットアートから28点の作品を送ってもらうことに。創立60周年記念の国際美術交流展が盛大に実現したのです。

右から1人目ワレス前ハット市長、デビッド　ハットアート会長、私、あと美術訪問の会員のみなさん

翌年2017年5月2日～28日、今度はハットアートのオドリンギャラリーで美術協会創設初めてとなる海外での会員展を開催。会員39名の39点の作品を展示することができました。オープニングで開催の挨拶をしましたが、ハット市の街を挙げての歓迎ぶりと文化を大切にする姿勢に、熱い思いと感謝の気持ちで一杯になりました。

毎年交互に作品交流をしようと始め、コロナで停滞した年もありましたが2022年までに計3回ずつ双方から作品交流が実現しています。せっかく繋がった縁ですのでこれからも大切に続けていきたいと思います。

＊尚、交流作品は、国際交流協会の２F廊下に展示されています。

My life inside a triangle（さんかく）

Alex Nissanka

Wish you a very Happy New Year to all my wonderful Friends at the Minoh – Hutt Friendship Club.
I was born & raised in the Island country of Sri Lanka.
Received my technical & managerial training in the island country of Japan. Now enjoying retirement in the island country of New Zealand. Hence I feel that my life is embedded inside a triangle formed by the values & friendship of these three beautiful island nations.

Let me turn the clock backwards for 50 years.
The simple equation will be 2022 – 50 = 1972.

1972 was a turning point of my life, when my company Ceylon Ceramics Corporation informed me that, I have been selected to go to Japan, to learn Ceramic technology under Noritake Company in Nagoya. I was delighted very much. I was young man of 25. Fifty years ago not very many people spoke English in Japan. So we were given five weeks to learn spoken Japanese at the Chubu Kenshu Centre Nagoya. こまった desu ne

But it was ok, teacher and the students worked hard after five weeks I was able to speak very basic Japanese. The Japanese people, even strangers became very happy and helpful when they noted that we were making an effort to learn the language of the land. Our friendship with the Japanese people was blossoming into a beautiful flower like the Cherry Blossom さくら.

After migrating to New Zealand 33 years ago, I settled in Wellington – Lower Hutt area. I missed Japanese activities for some time, but fortunately discovered the Hutt Minoh club and became a member.
I was given a task to create a conspicuous signboard at the entrance to the Hutt Minoh House at normandale Lower Hutt. With help of a graphic artist and a sheet metal company I managed to create our sigh board. I used the large rising red sun to introduce Japan the waving New Zealand flag (in the windy Wellington) and a beautiful Sakura branch in full bloom to signify the wonderful friendship between the two countries. All were very happy about it.

When there is lot of unrest in the world, in order to foster world peace and friendship, the sister city activities are doing a valuable service. I wish to thank and appreciate the good work done by the Minoh Hutt Friendship Club, Especially for the wonderful friendly hospitality extended by all of you during the Lower Hutt Mayoral Delegation's visit to Minoh during 2015, and the warm friendly home stay extended to me by Yoshie san & Keiko san and their families.

本年度の活動について

今年はようやく対面での行事も各所で行われるようになり、私達のクラブでも感染予防をしつつ、念願の対面での開催も実現しました。この号でご紹介したとおりです。
昨年の1月以降、感染力の強いオミクロン株にも関わらず、皆様のご協力とご理解に感謝いたします。

対面開催された集い
・総会と茶話会：6月
・第2回 箕面市姉妹都市交流フォーラム：11月　箕面メキシコ友の会と共催
・キウイパーティー：12月　アルコールなし　MAFGA、コムカフェにて

自粛した集い
・ニュージーランド・ワイン試飲会
・多民族フェスティバル（NZワインの模擬店）
早くも3年に渡る自粛を余儀なくされております。NZワインのファンの皆様には申し訳ありません。

年度後期の活動
・花見の集い：「花より酒」の万博公園の花見、今年は是非再開したいところです。
・月々の英会話サロン：ティータイムの復活も望まれます。
原則として、第3日曜日、14:00～16:00、東生涯学習センターにて開催しています。
会場の都合などで変更される場合があります。その場合は参加経験者宛、メール連絡をいたします。

新たな活動
・Youth部会：産声をあげた、若い会員の皆様を軸とした活動
会員相互の理解と協力を通してこれが発展できますように。
・その他、同好の志が集う、
軽音部、ダンスの会、「ロワーハット・最初の庭園都市」読書会、NZ映画鑑賞会
小さな活動の集積によるクラブ活動の盛り上がりを期待しています。

2020年1月、日本で初めての新型コロナ感染症が確認されて丸3年。そしてこの度、来る5月には感染法上の分類を第2類相当から第5類に改定されることになりました。
しかしまだ、私達のコミュニケーションツールとしての、この会報の役割が重要視される状況です。
ともに活動の方策を探りながら、みなさまのますますの活動参加そしてご発展が叶いますように、一緒に前を向いて参りましょう。

ニュージーランド大使館・国交樹立70周年記念祝賀会

副会長の窪敏夫さんに参加をお願いしました。以下ご紹介いたします。

東京にあるニュージーランド大使館から国交樹立70周年を祝う祝賀会にハットクラブが招かれました。
祝賀会は12月1日（木）、東京渋谷にあるニュージーランド大使館公邸の中のレセプション・ルームで行われましたが、今回はニュージーランドとの日本の草の根交流に貢献があった姉妹友好都市の市長・町長と関係団体を集めたものでした。
丁度いい広さの部屋に洗練されたインテリア、それに続く広い庭は綺麗にライトアップされて大変雰囲気のいい祝賀会でした。
人数があまり多くないこともあって、大使のヘイミッシュ・クーパー氏とも落ち着いてお会いすることができました。

編集後記

1月末は全国的に最大級の寒波に覆われ、箕面大滝も雪化粧しました。
しかし、節分ももうそこまで、梅の香のたよりもちらほら聞かれます。
編集担当を前任者からバトンタッチして1年がたちました。年末のお忙しい中にも関わらず、皆様からはタイムリーに寄稿を頂きました。おかげさまでスムーズに編集作業ができました。
より良い内容を目指して参りたいと思います。皆様のさらなるご協力を改めてお願いいたします。

発 行 日：２０２３年１月
編集担当：加藤俊明、山根ひとみ
箕面市ハット市友好クラブHP
https://minoh-hutt.com/